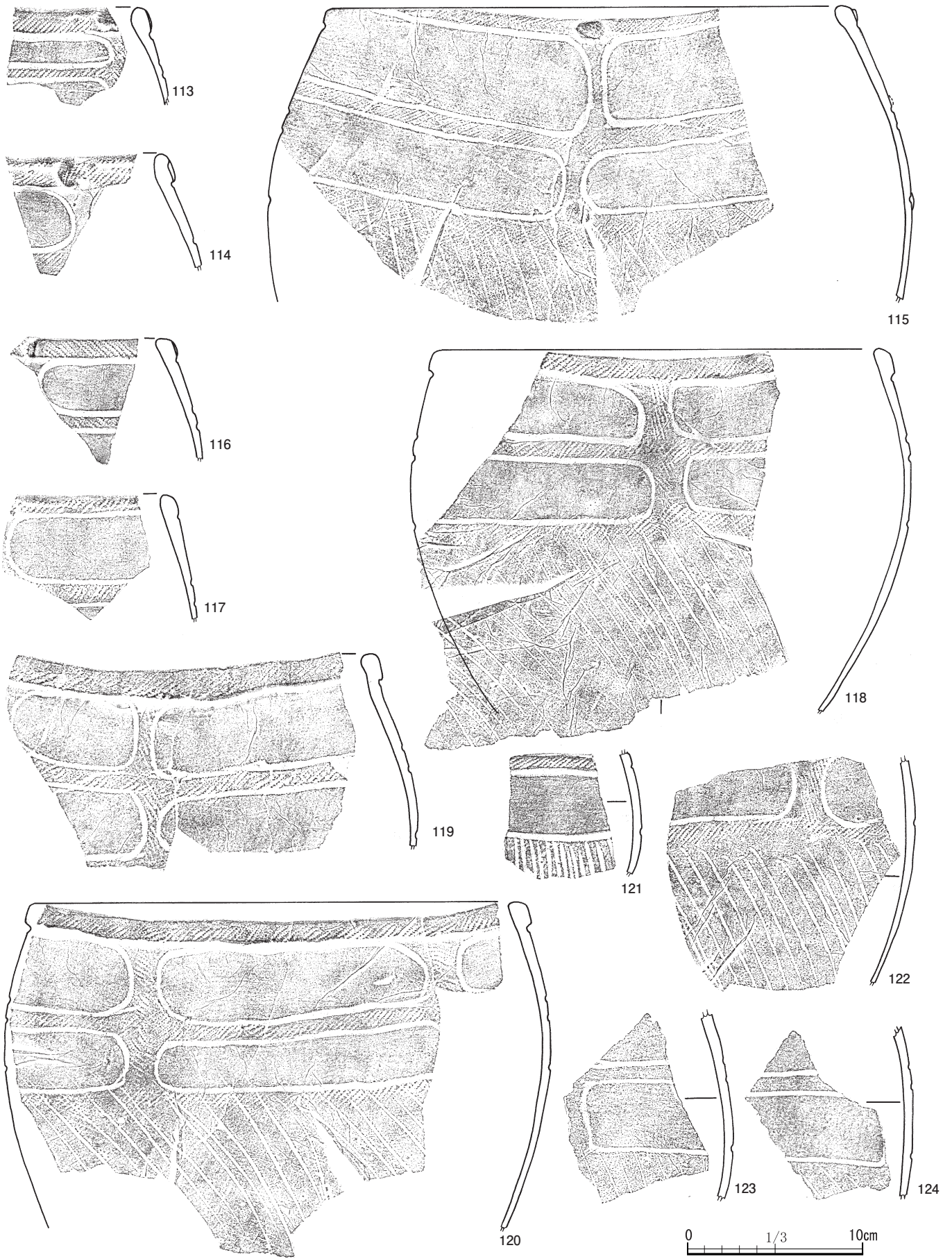
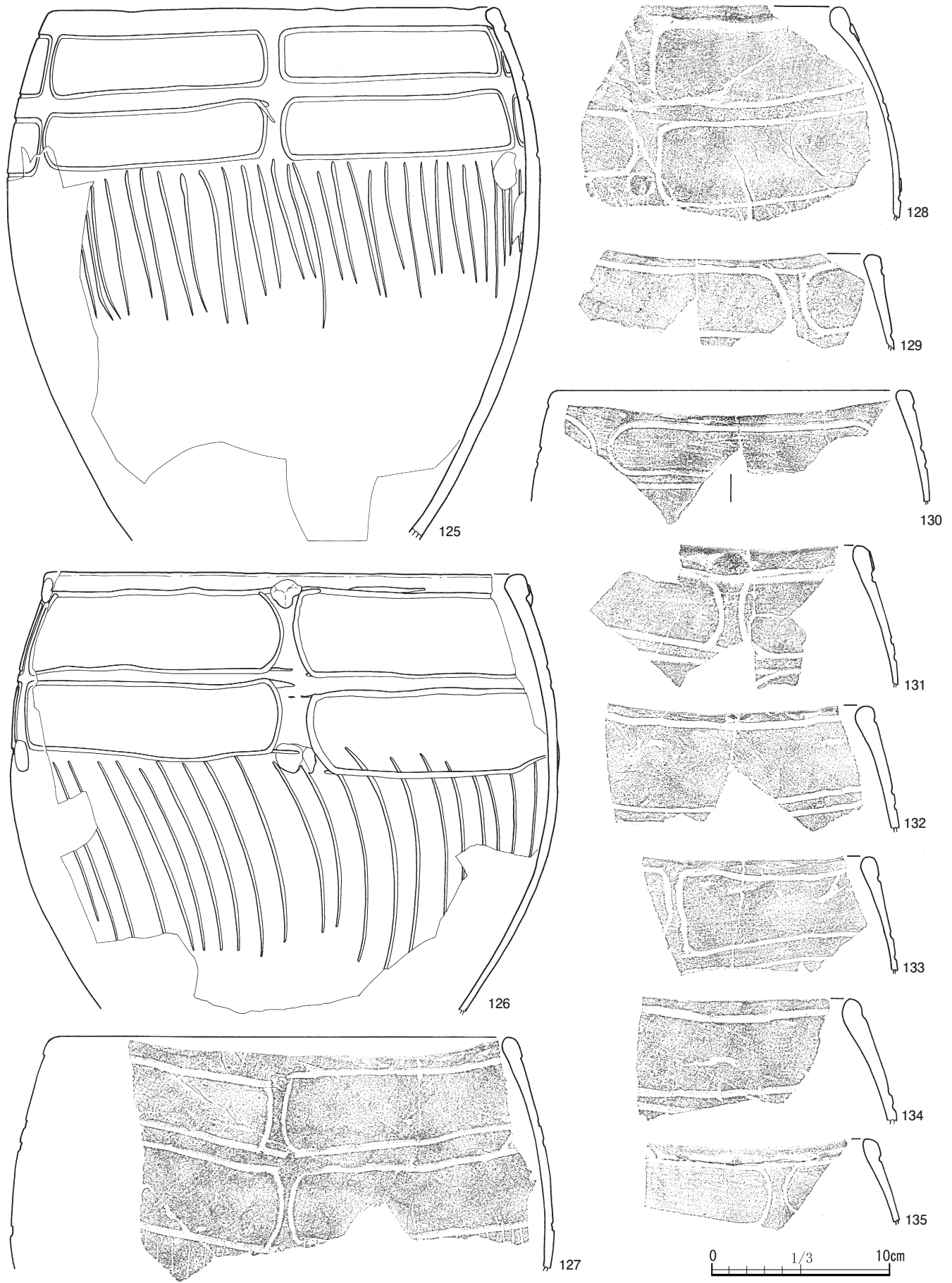




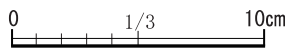
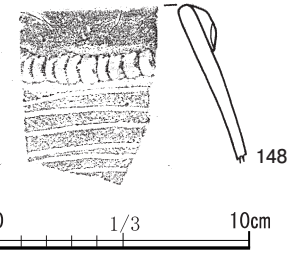
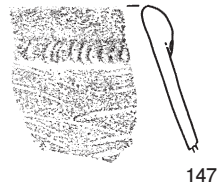
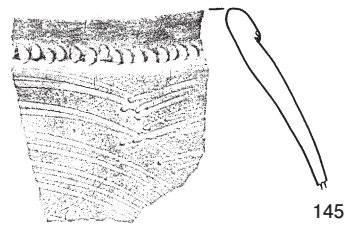
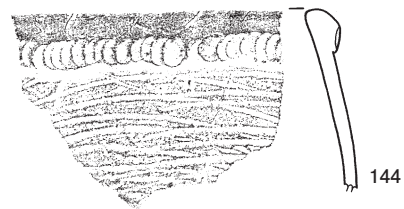
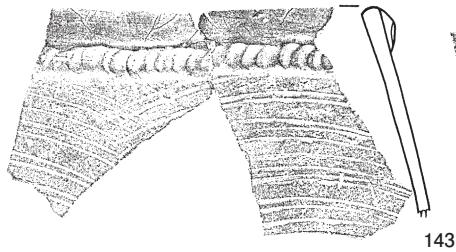
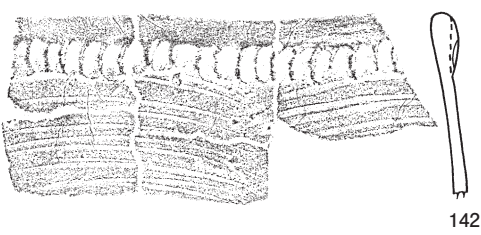
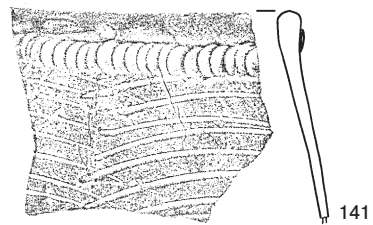
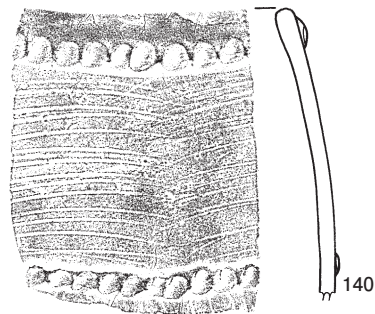
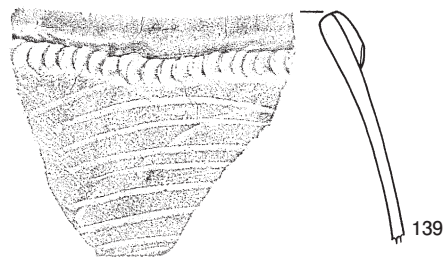
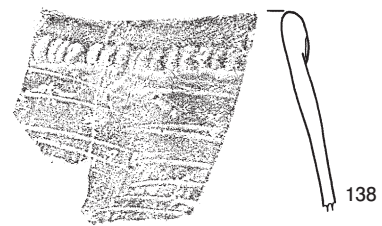
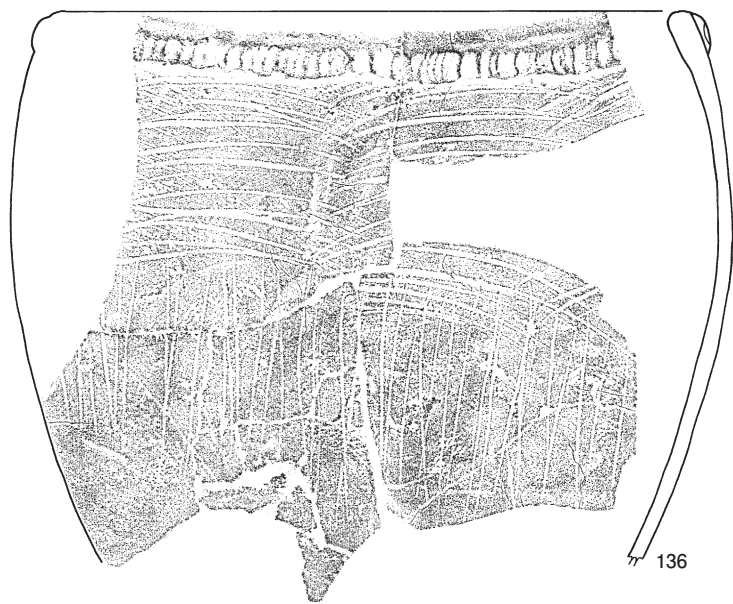
第 50 图 140 号住居跡出土土器 (7)



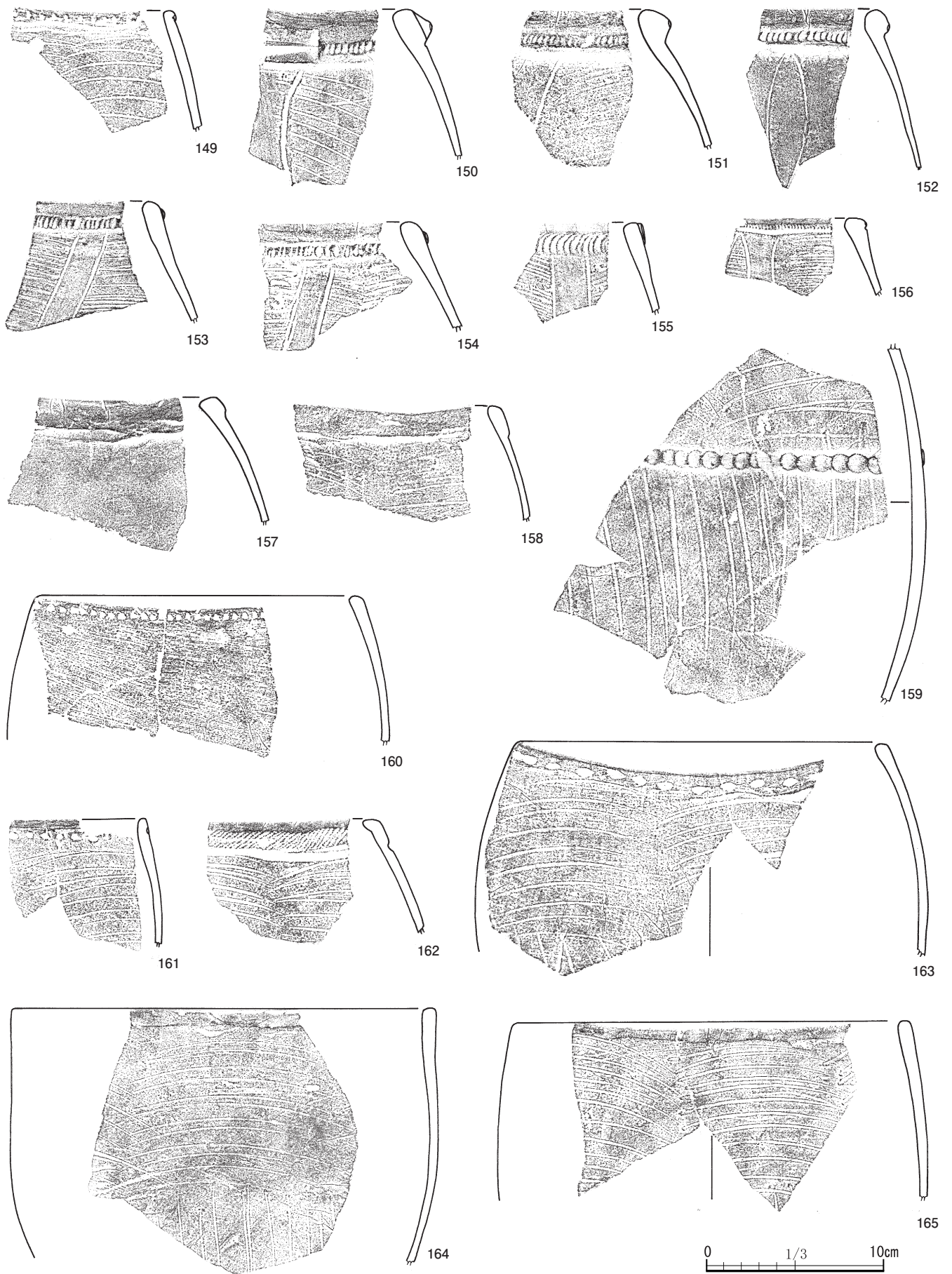
第 51 图 140 号住居跡出土土器 (8)



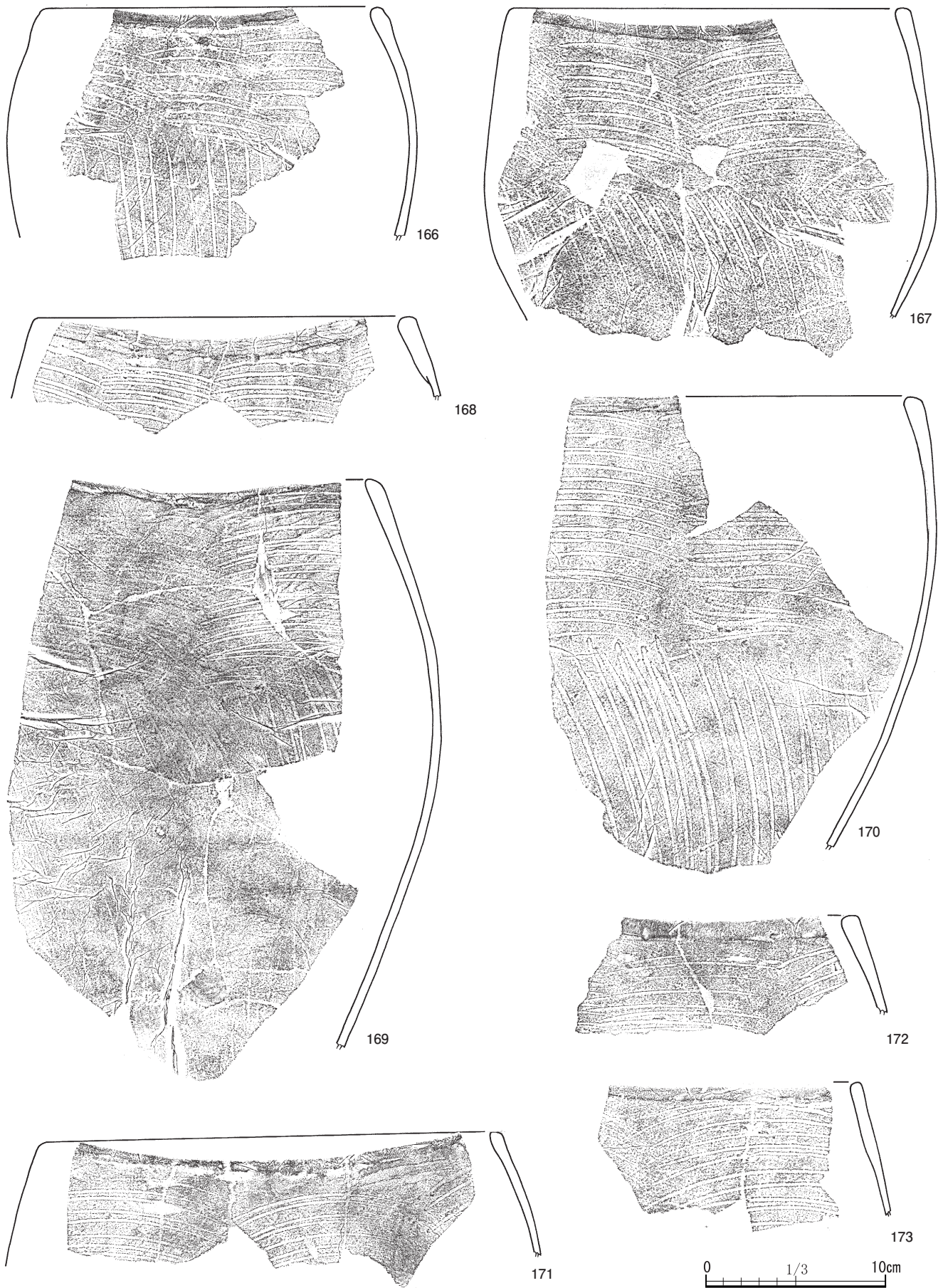
第 52 图 140 号住居跡出土土器 (9)



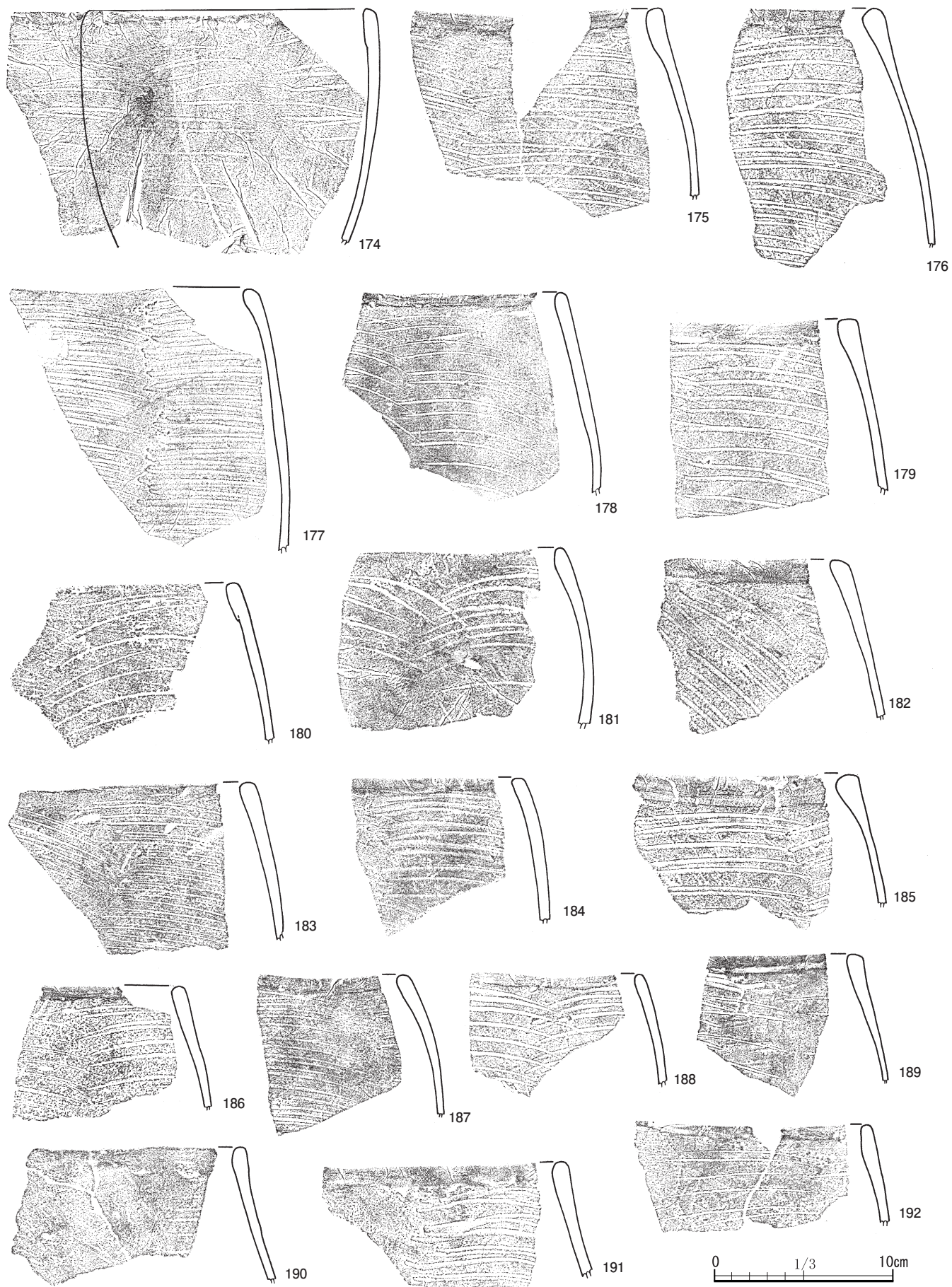
第 53 图 140 号住居跡出土土器 (10)



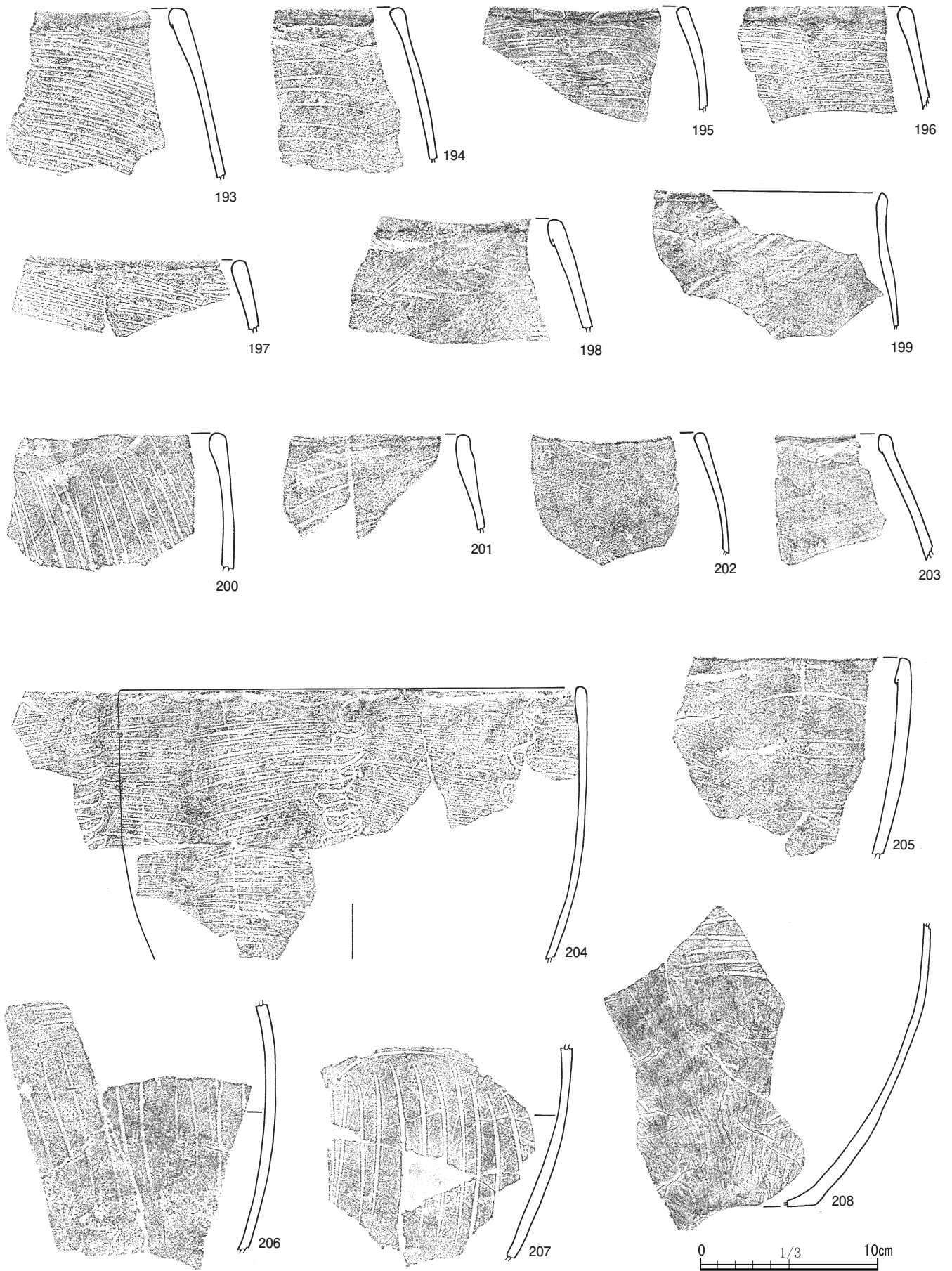
第 54 图 140 号住居跡出土土器 (11)



第 55 图 140 号住居跡出土土器 (12)

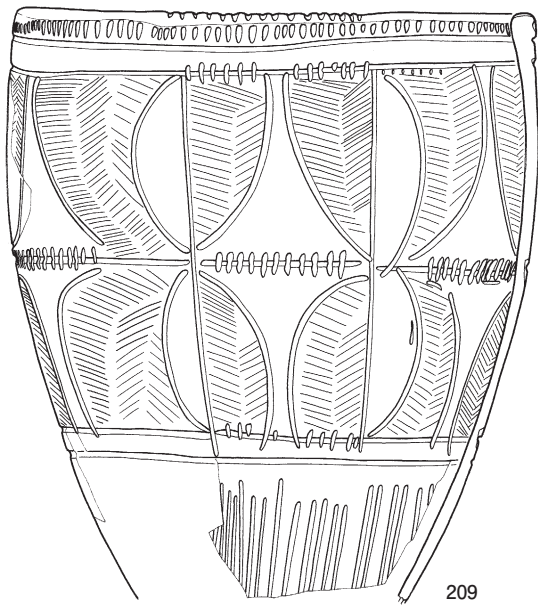


第 56 图 140 号住居跡出土土器 (13)

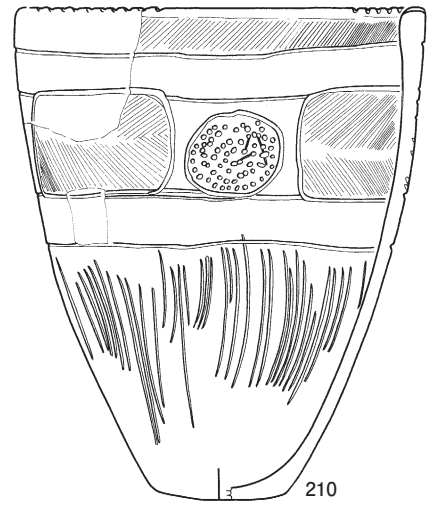


第 57 图 140 号住居跡出土土器 (14)



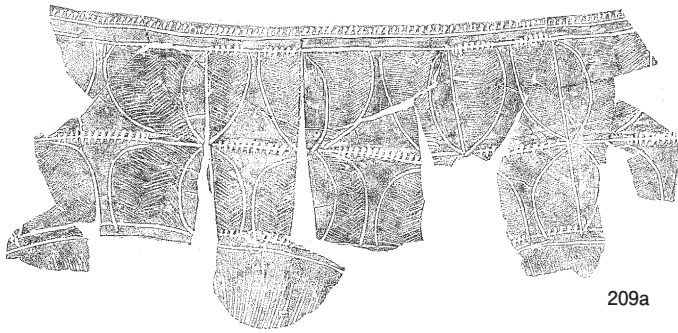


209

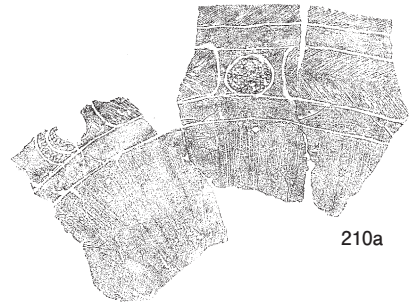


210

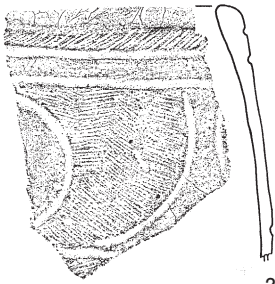
※ 209a・210aは  
S = 1/6



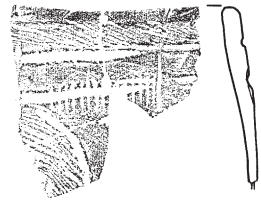
209a



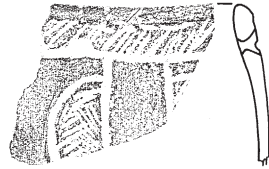
210a



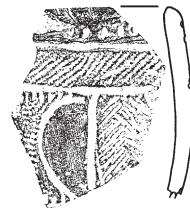
211



212



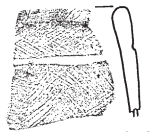
213



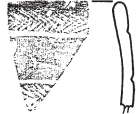
214



215



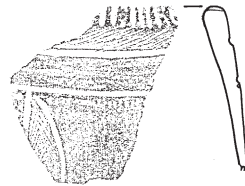
216



217



218



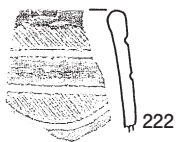
219



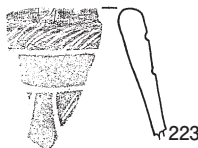
220



221



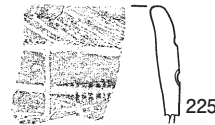
222



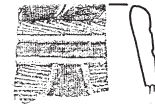
223



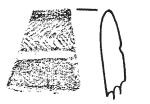
224



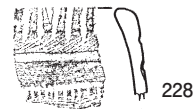
225



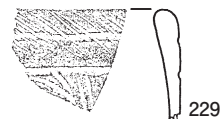
226



227



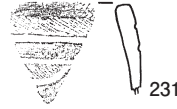
228



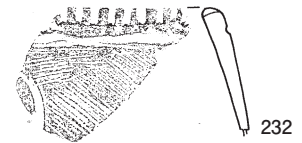
229



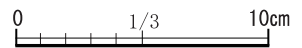
230



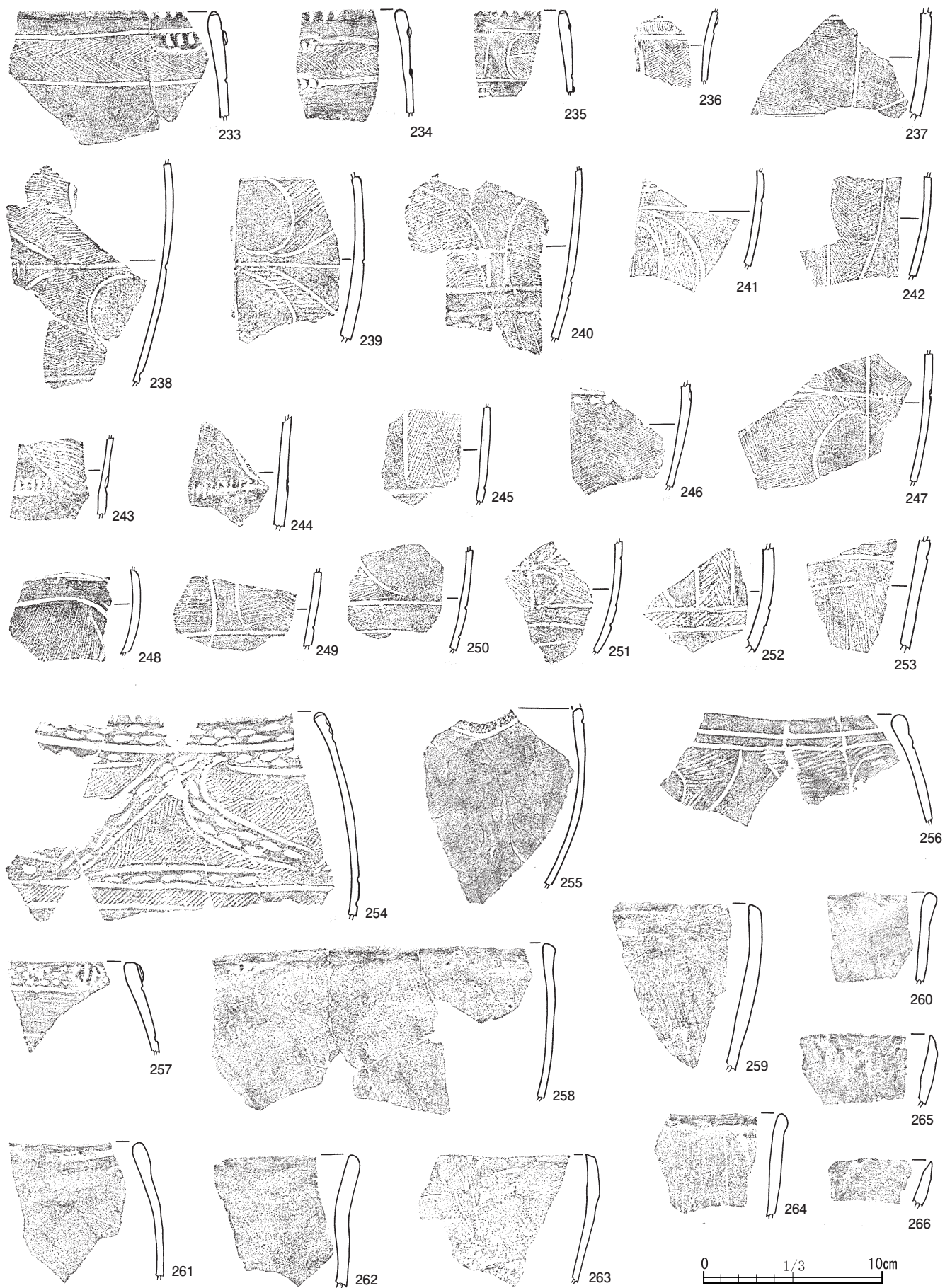
231



232



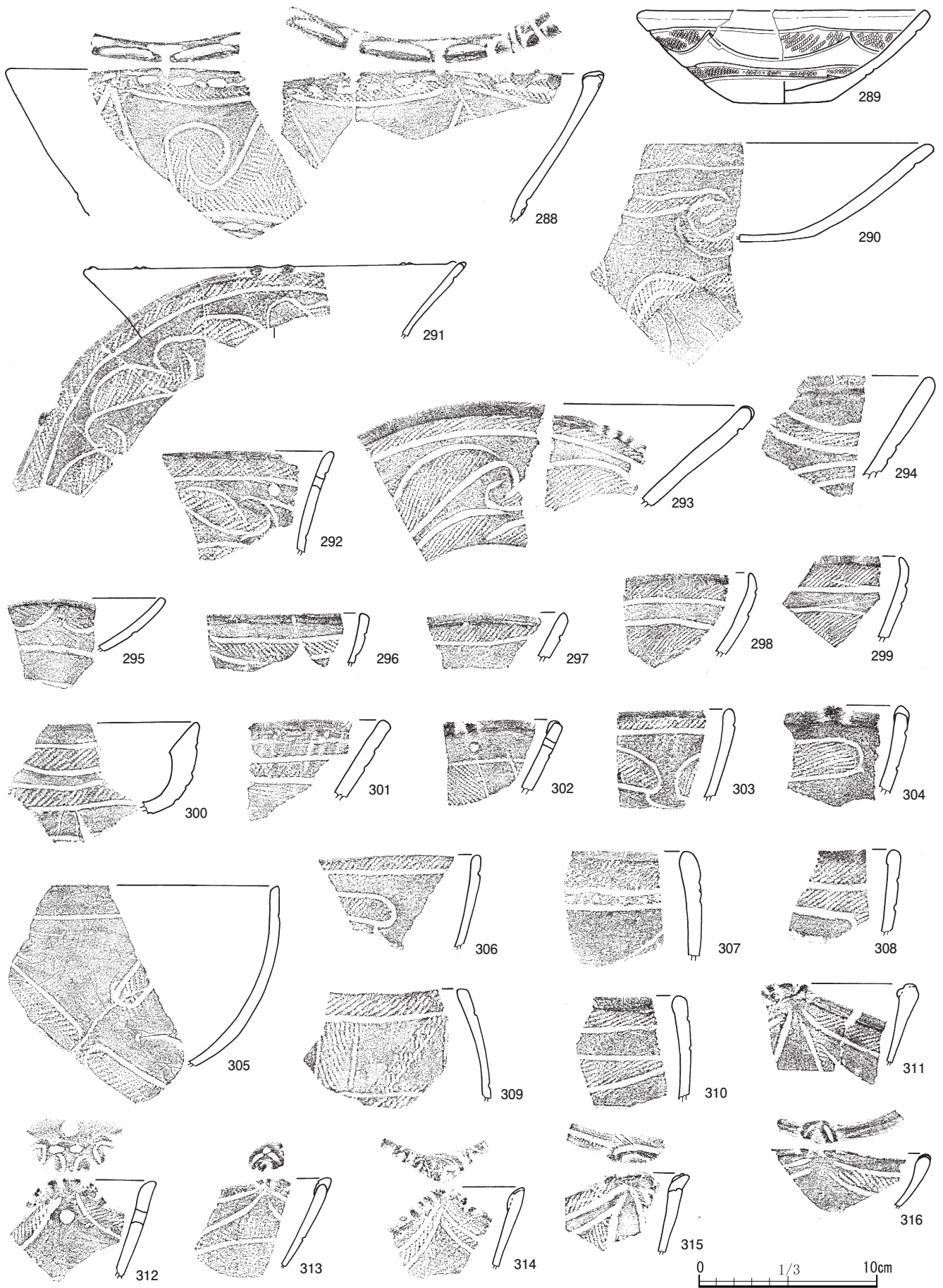
第 58 图 140 号住居跡出土土器 (15)



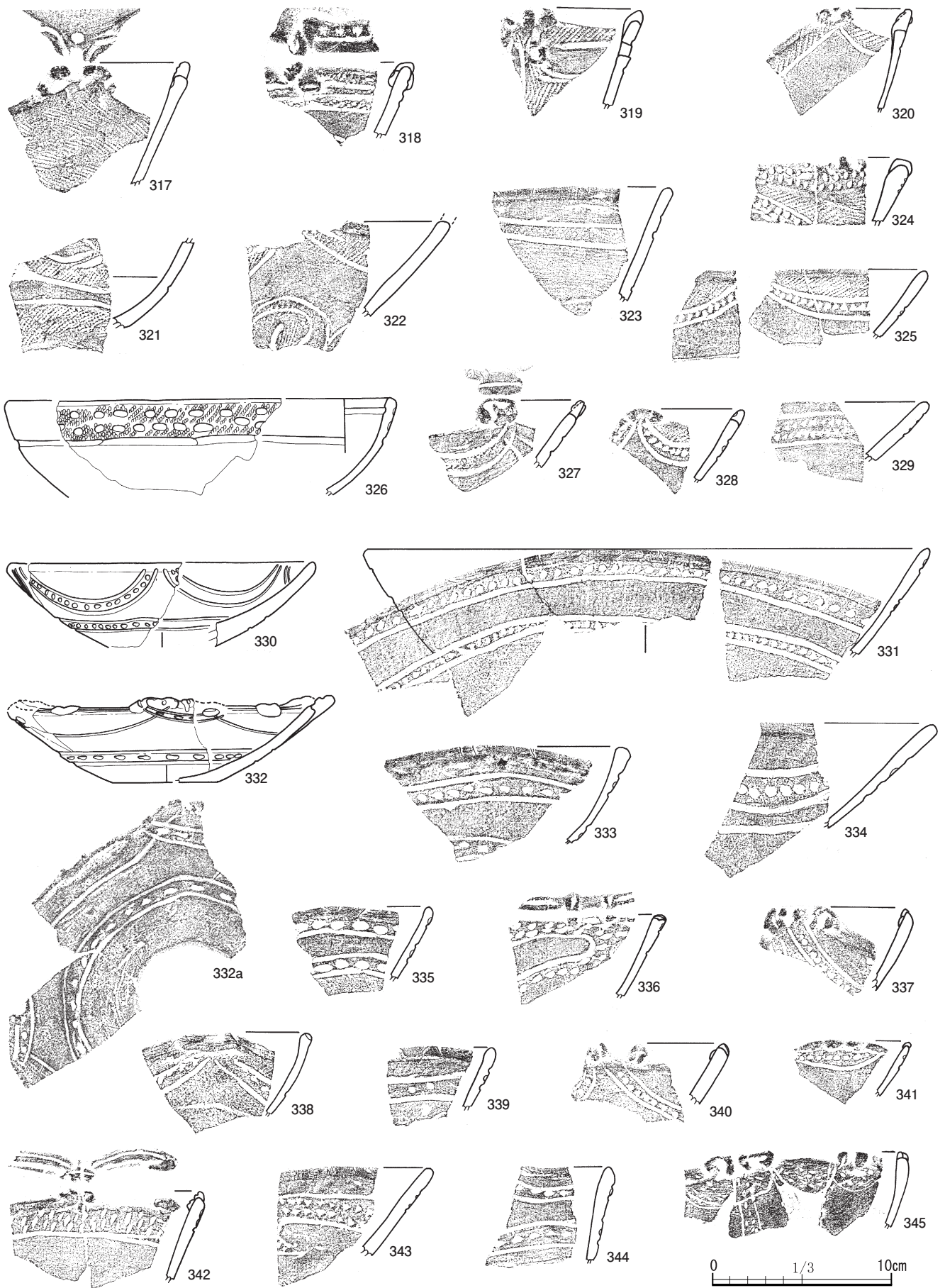
第 59 图 140 号住居跡出土土器 (16)



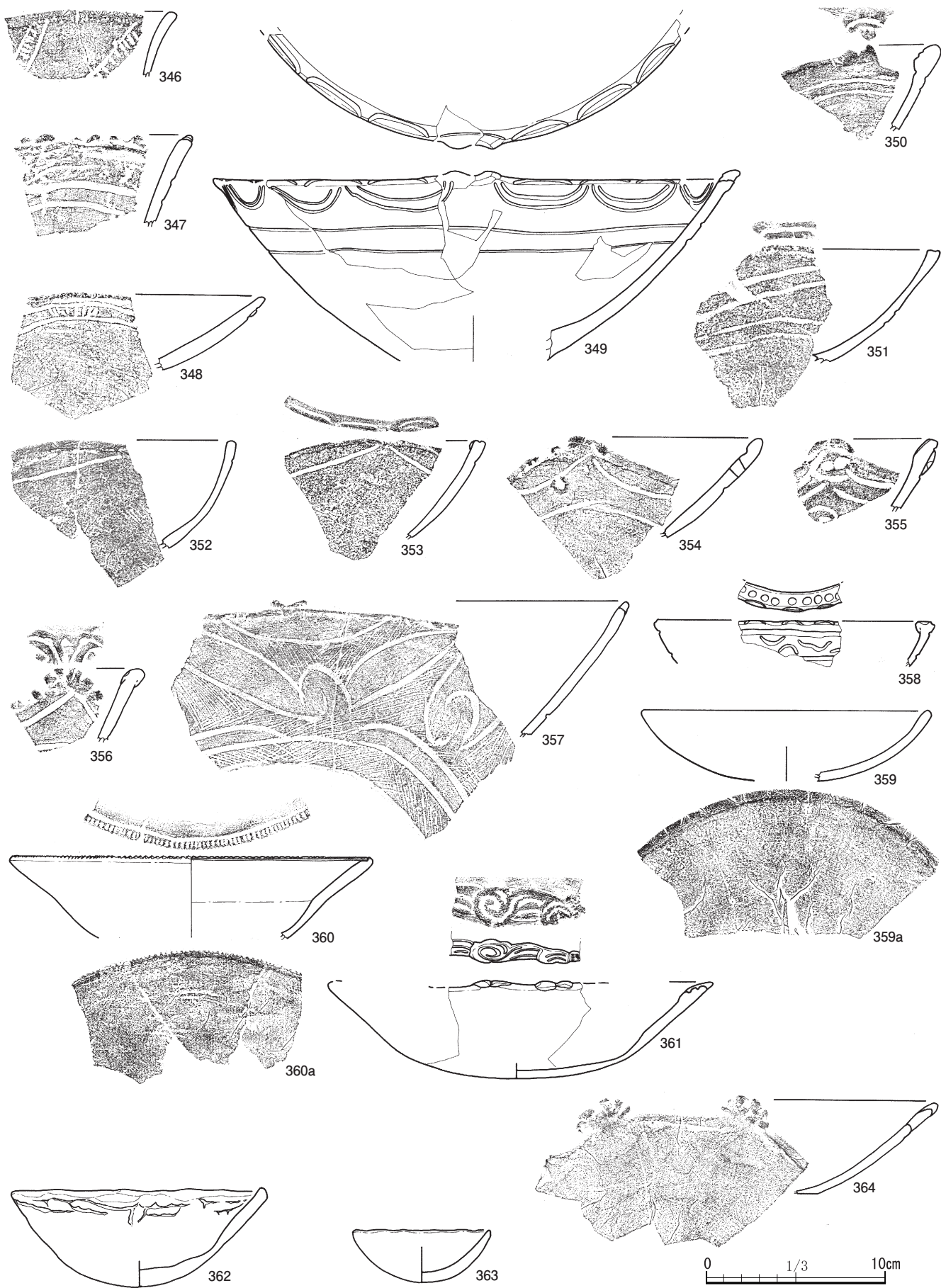
第 60 图 140 号住居跡出土土器 (17)



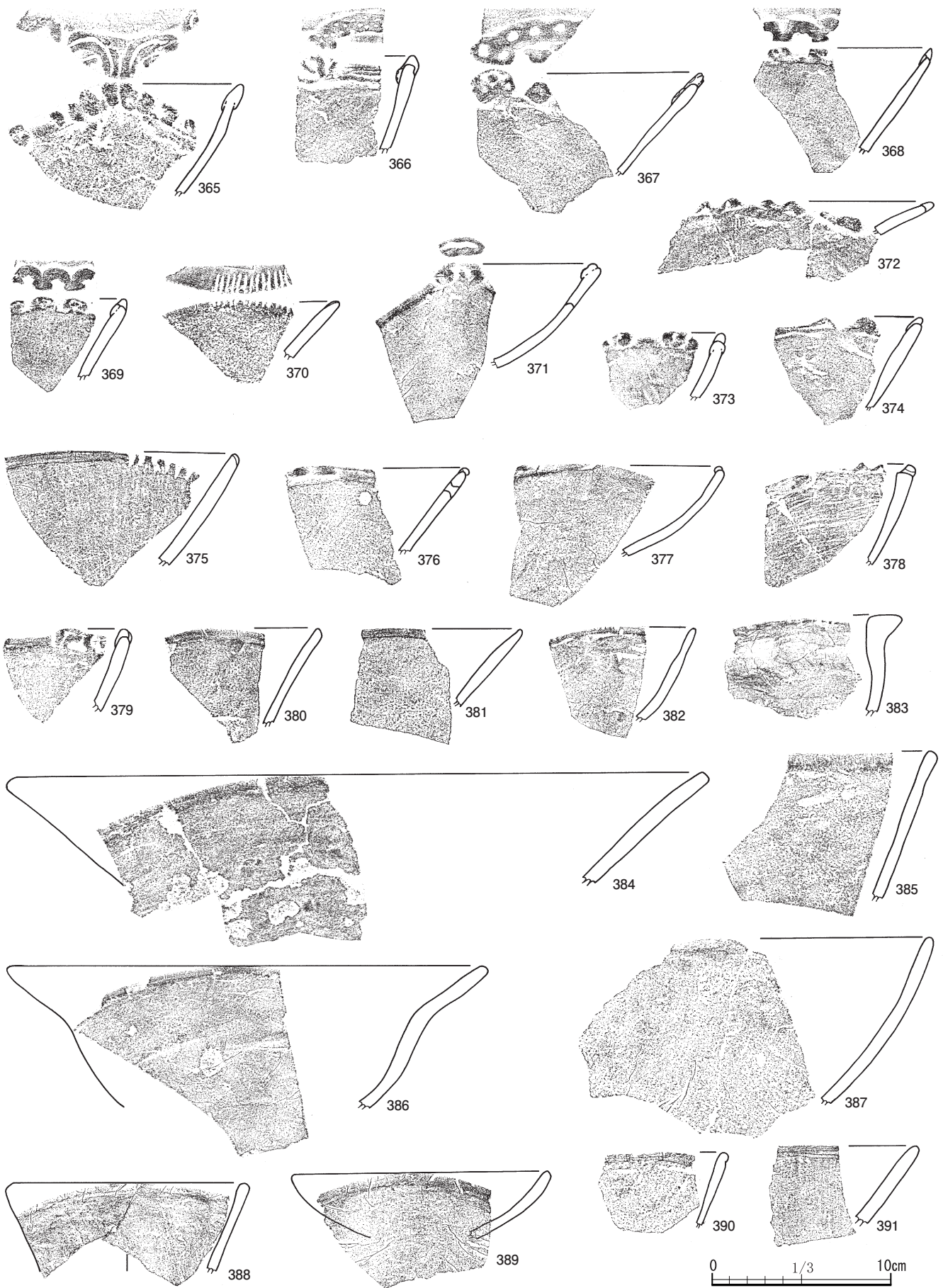
第 61 图 140 号住居跡出土土器 (18)



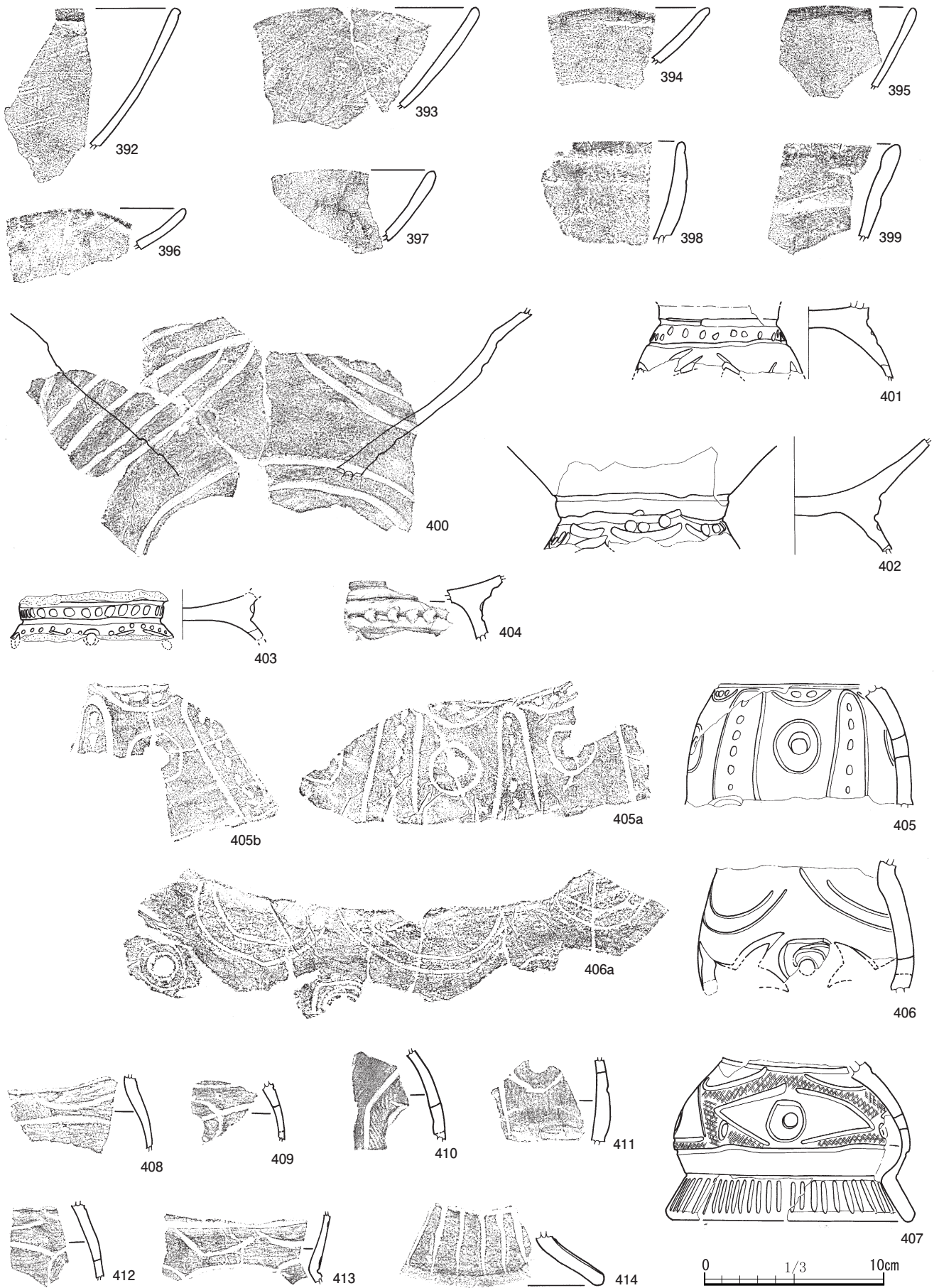
第 62 图 140 号住居跡出土土器 (19)



第 63 图 140 号住居跡出土土器 (20)

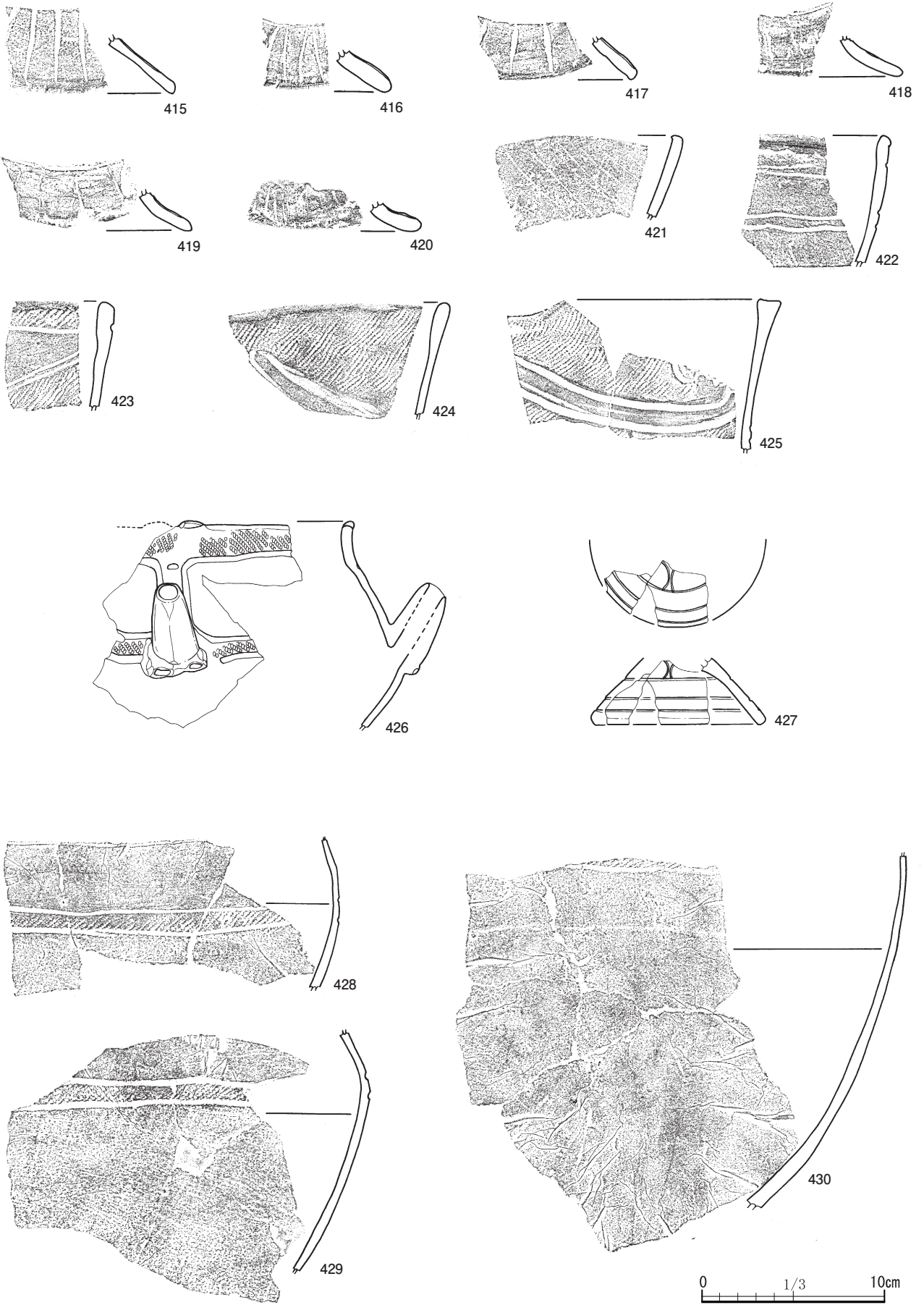


第 64 图 140 号住居跡出土土器 (21)

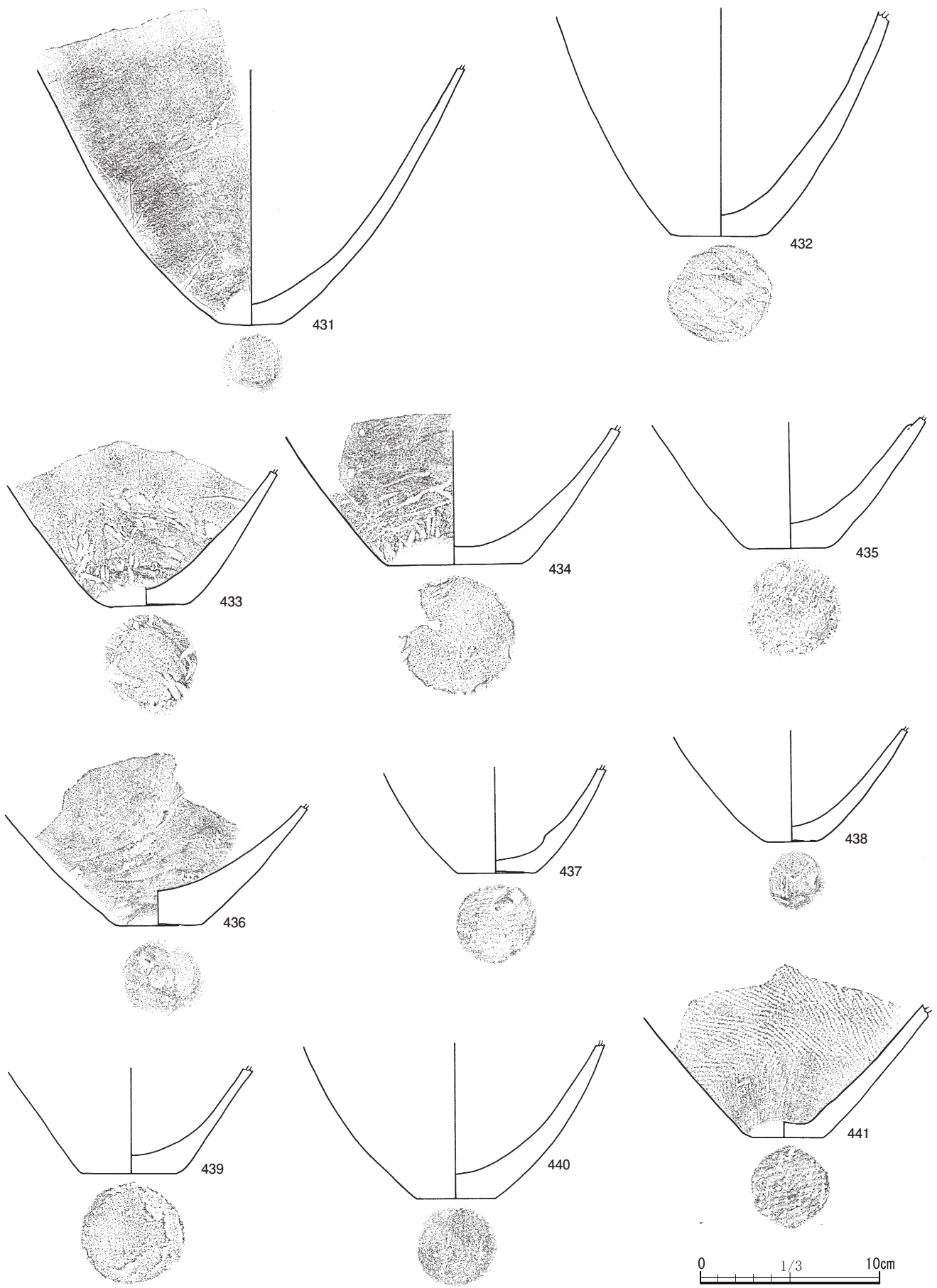


第 65 图 140 号住居跡出土土器 (22)



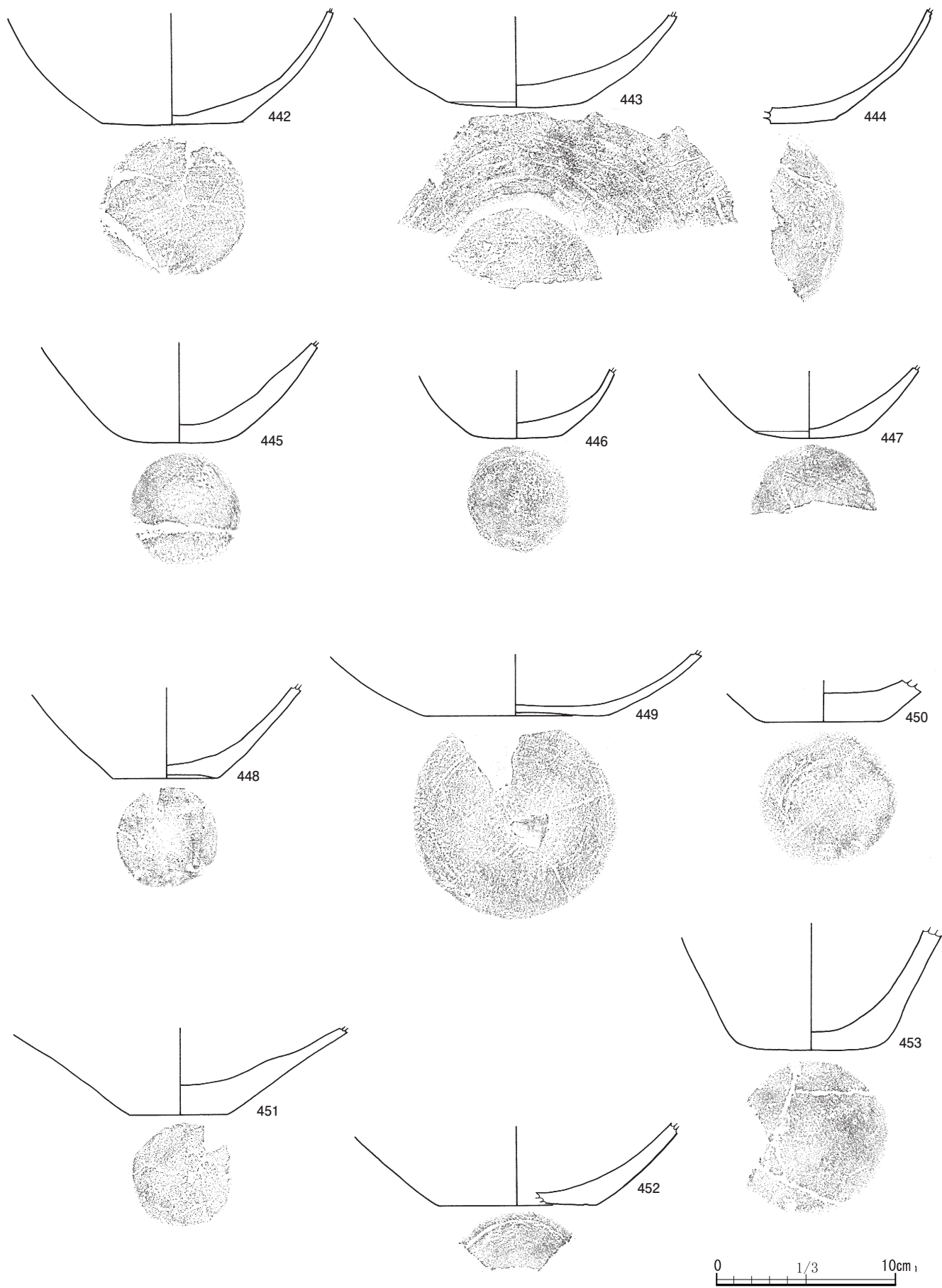


第 66 图 140 号住居跡出土土器 (23)

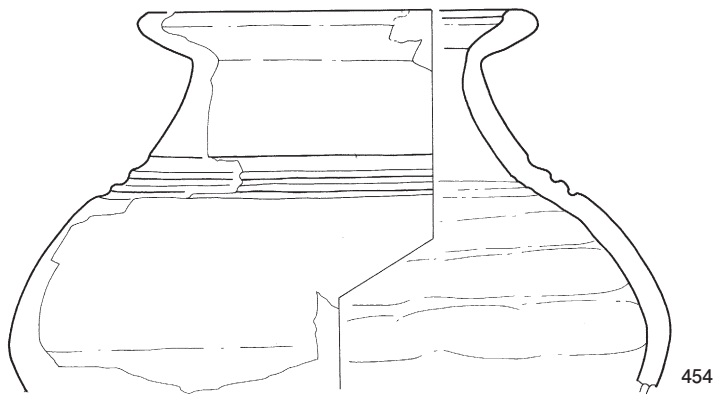


第 67 图 140 号住居跡出土土器 (24)

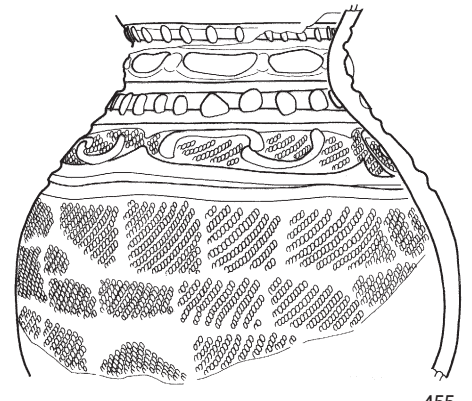
底部



第 68 图 140 号住居跡出土土器 (25)



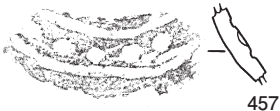
454



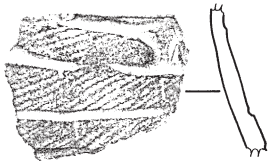
455



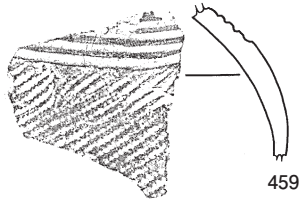
456



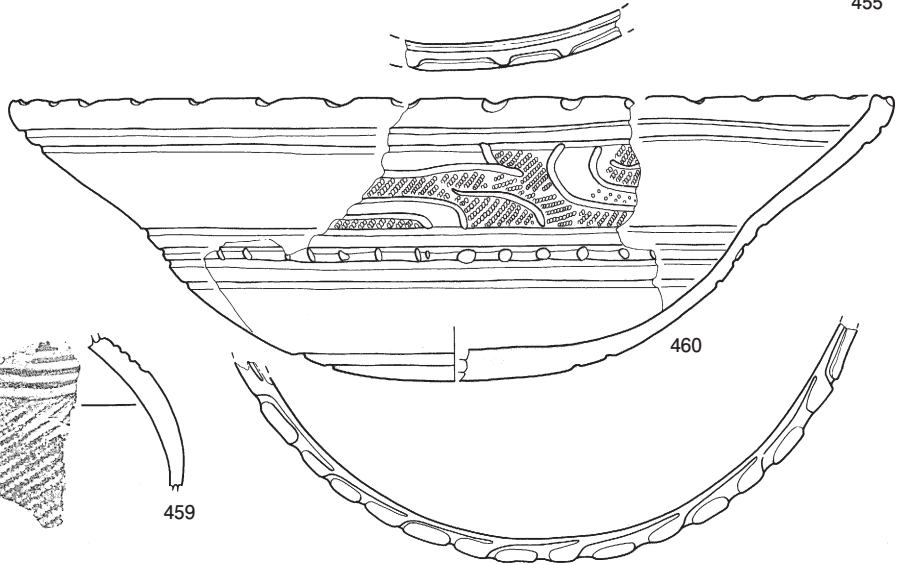
457



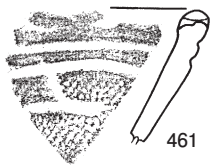
458



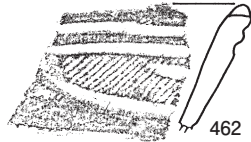
459



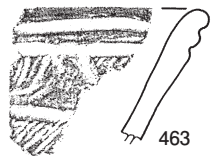
460



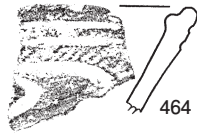
461



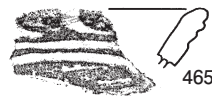
462



463



464



465



466



467

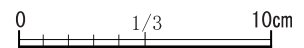
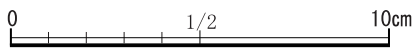


468



469

※ 469 は S=1/3

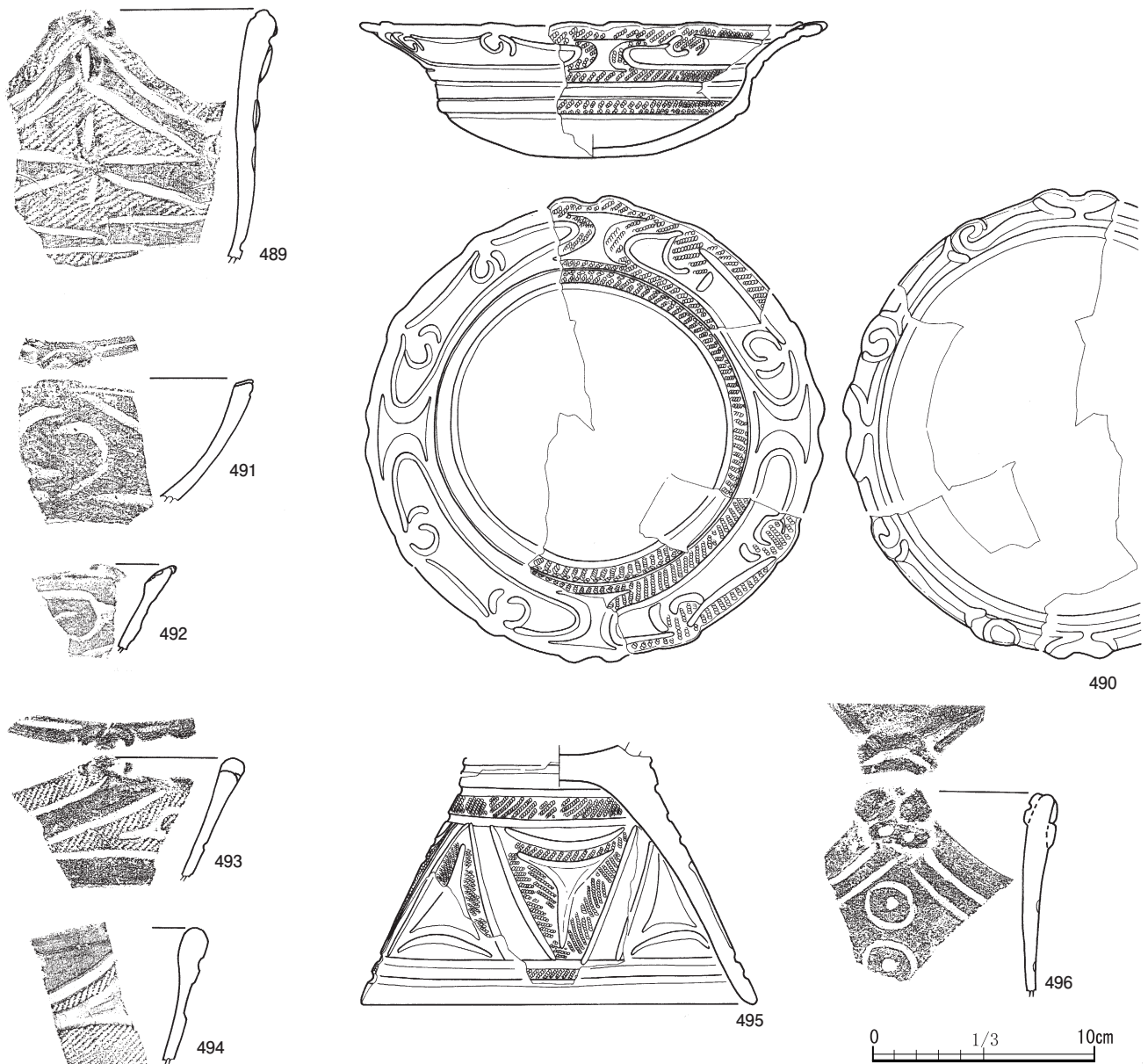


第 69 图 140 号住居跡出土土器 (26)



※ 487・488 は S=1/3

第70图 140号住居跡出土土器 (27)



第71図 140号住居跡出土土器 (28)

程度だが、内外面の装飾から同じ文様の四単位の繰り返しと考えて図化している。口頸部の充填縄文無文部は彫去した薄い器壁である。

491・492には縄文を施文しないが、偏平な粘土塊を貼付した小突起を口唇部に持ち装飾を加える。

493・494は波状口縁の鉢形土器。493の波頂部は平坦である。494は充填縄文部の彫去が著しい。

495は台付土器の台部で、上下向きの違う三角形区画に三叉状の彫去を中心とした充填縄文で装飾する。なお、端部の帯状区画は縄文を充填せず磨いている。

496は(鈴木1963)分類の「姥山Ⅲ式a類」で、今回の調査で得られた図示可能な唯一のものであるから提示したが、本跡覆土下層での「姥山Ⅲ式b類～e類」の安定した出土からすれば、489～495と共伴する可能性は低いだろう。(菅谷)